

に、とも色にさいはい菱をかすかに縫せ、あつち織の中幅前にむすび今はやるふき懸手拭塗笠のうち、只人とも見えす、

〔嬉遊笑覽^二服^上〕一代男一に、ふきかけ手拭とあるは、今もある帽子ぞめなるべし、

〔嬉遊笑覽^二服^上〕紅梅千句に、をどりに出さぬうら盆の宿花ぞめの五尺の布や惜むらん、これ又手巾にて踊りに用るなり、

〔男色大鑑^五〕涙の種は紙見世

大歌舞妓御法度の後村山又兵衛が物まね狂言づくしに仕掛、太夫子あまた集めしに、其頃迄は都にも舞臺子のあそびは稀に、花代も一步づ、になべて極め、今の世の飛子同前に客を勤めぬ、
○中 其時の子供は、まことの子どもにて、戀を重ねてあへども、御無心云事もなく、もてあそびとて、飛人形又は染分の手拭、琢砂やうく四五分が物をとらずに、嬉しがりに、
○下

〔守貞漫稿^{十五}男服〕手拭 テヌグヒト訓ズ、手巾也、晒木綿一幅ヲ長ク鯨尺二尺五寸に裁チ用フ、木綿ハ播州木綿ヲ專トス

手拭に種々ノ染形ヲ用フ、縞ヲ用ヒズ、
○圖

芥子玉絞リト云、手拭ニ多キ形也、地白ニ藍絞リ也、京坂ニテハ、シラミシボリヲ專名トス、木綿買ハケシタマト云也、江戸ハ木綿買ニ非ル人モ專ラ芥子玉ト云、シラミハ虱也、絞リ紋小ニシテ虱ノ大サ故ニ名ク、板ジメ染也、又形芥子玉ニ似テ絞リ文ノ大ナルヲ豆絞リト云、絞文豆ノ大サ故ニ名ク、

半染手拭ト云、右圖[○]ノ如ク半斜ニ片白片藍ノ無地、或ハ片白片水淺葱、或ハ片白片淺葱ニ小紋アル物等小紋ハ白也、

右ノ二品等ヲ專トス、其他種々ノ紋ヲ染メ、或ハ絞リ用フ、又手巾ニ、江戸ニテカメノゾキト云